

2020年3月13日

日本銀行大阪支店

関西金融経済動向

【全体感】

関西の景気は、基調としては緩やかな拡大を続けているものの、足もとでは新型コロナウイルス感染症の影響に拡がりが見られている。

輸出は、中国向けを中心に弱めの動きが見られている。設備投資は、増加している。個人消費は、良好な雇用・所得環境を背景に基調としては緩やかに増加しているものの、足もとでは新型コロナウイルス感染症の影響が見られている。住宅投資は、横ばい圏内で推移している。公共投資は、緩やかに増加している。こうした中で、生産は、弱めの動きが見られている。

先行きの景気を巡るリスク要因としては、新型コロナウイルス感染症の動向とその影響、中国を始めとする新興国・資源国経済の動向、グローバルなIT関連財需要の動向、国際金融市場の動向などに加え、それらが企業や家計のマインドに与える影響などが挙げられる。

【各論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、緩やかに増加している。

輸出は、中国向けを中心に弱めの動きが見られている。

設備投資は、増加している。

個人消費は、基調としては緩やかに増加しているものの、足もとでは新型コロナウイルス感染症の影響が見られている。

スーパー等販売額は、足もと増加している。家電販売額は、緩やかに増加している。百貨店販売額、乗用車販売、旅行取扱額、外食売上高は、足もと減少している。

住宅投資は、横ばい圏内で推移している。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、弱めの動きが見られている。

内訳をみると、電子部品・デバイスや鉄鋼・非鉄金属が弱めの動きとなっている。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状態が続いており、雇用者所得も緩やかに増加している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、0%台後半となっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて低水準で推移している。

6. 金融情勢

預金残高は、個人預金や法人預金の増加を背景に、前年比2%程度のプラスとなっている。

貸出残高は、企業向けや住宅ローンの増加などを背景に、前年比2%程度のプラスとなっている。

預金金利は、低水準で推移している。

貸出金利は、低下している。

以 上